

2019年
6月20日
木曜日

井口 泰 教授 (労働経済学)

「真理への希望」 (経済と人間)

ヨハネによる福音書3:21「真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが明らかにするために。」

讚美歌21528「あなたの道を」(Paul Gerhardt 作詞 J.M.Heydn 作曲)

現在、世界で起きていることは、私たちの日常の体験では想像がつかない未体験ゾーンにあります。世界経済危機後に、アメリカなど先進国経済と、中国など新興国経済のバランスは大きく変化したことを、どうか認識してください。

皆さんも、2018年以降の米中貿易摩擦の深刻化とその影響を心配しているでしょう。それは二国間だけの問題ではありません。日本や東アジア全体で、貿易・投資の縮小を招く可能性が高いからです。

実は2016年には、EUと中国の間の貿易摩擦は深刻化しています。それは、EUの対中貿易赤字が拡大するなか、EUが中国を市場経

済として実質的には認めていないことが明らかです。社会主義市場経済が競争を歪めるという理由で、欧米諸国が中国に実施困難な改革を求めれば、貿易・投資摩擦の長期化は必至です。加えて、第5世代の情報通信技術を用い、周辺アジア諸国を情報通信技術で囲い込もうとする中国と、技術漏洩を警戒する欧米諸国の対立は、お互いを容赦しないレベルに達しています。

日本企業も、中国に進出する際、以前なら古い設備を移転し、最新鋭の施設の建設を避けました。近年、先端技術なしに競争的地位を維持することが困難です。現地法人は原則中国企業と合併で人事も「たすき掛け」で、技術漏洩を懸念するなら中国に進出すること自体不可能です。

中国は2013年に「一带一路」戦略を掲げて以来、アジアだけでなく、アフリカに膨大な中国資本や人材が流入しています。東南アジアの

一部諸国も、中華経済圏のような様相を呈し、対中債務が極端に膨張し、各国内の政治的対立が生じてしまいました。

先進諸国では、新興国に比べ投資利益率が低く国内投資が停滞し、人手不足でも賃金があがりにくい状況です。さらに技術進歩の性格が影響を与えていると考えられます。人口知能や最新情報ソフトの開発は「熟練偏向型」で、特定の専門・技術者の雇用を生みますが、新技術を体化した資本財価格が労働賃金と比べて低下すると、全体として雇用の非正規化と低賃金が進行する恐れがあります。

東アジアでは、若年人口の伸びの低下と高学歴化も急速です。日本の大学の外国人留学生数は停滞していましたが、増加に転じています。これには、アメリカの留学生受入れ規制も影響があると考えられます。以上は起きていることのほんの一

部です。私はみなさんに、傍観者的な態度をとってほしくないのです。自分が当事者になって行動しなければ、真理をつかむことなどできないからです。(ヨハネ3:21)。急激に変化する世界で、「真理」を探究し、創造的働きに関与するために、ひとりひとりが異なる人生を生きる勇氣を持ってください。

特に、日本の社会科学系の大学院進学者は2.5%を下回る過去最低水準です。欧米では、数十パーセントの学部生が大学院に進学し、複数専攻し、複数の国で学んでいます。世界で、もっと視野を広げ、飛び込む勇氣がなければ、日本の人材が活躍できる余地は限られると思います。過度に思い煩うのでなく、独自の人生を生きる勇氣を持ちましょう。「神はあなたがたを顧みてくださるのだから、自分の思い煩いをいっさい神にゆだねるがよい」(ペテロI 1:15)。